

## とにかく、不便さを訴えましょう。

<p>医療機関の体験</p>  <p>医療費は同じ、不公平</p>	<p>情報バリア(障壁)はまだまだ沢山あります。聴覚障害者のバリアは音及びコミュニケーションに関する事です。緊急放送に字幕がつかない、施設には補助火災警報器もありません。法律の問題もあります。他の障害者に比べると遅れています。</p>
<p>「やらなきゃ世の中何も変わらない」</p> <p>・提案方法(例)</p> <p>①新聞投書</p> <p>②メール</p> <p>③アンケート</p> <p>④陳情・請願</p>  <p>—具体的に、簡潔に—</p>	<p>聴覚障害者の場合、障害が見えないので何に困り、何をしてほしいのか、周りの人は理解できません。</p> <p>気づいた人が兎に角、訴えることですね。訴える方法はファックス、メール、手紙、電話なんでもいいのです。そこから全てが始まります。</p>
<p>大切なこと</p> <h1>動かないと何も変わらない</h1>  <p>「いつか自分も通る道」という認識が大切。</p>	<p>動かないと何も実現しません。前例がないと作るしかありません。私は耳が聞こえなくなったということは自分の宿命であると同時に社会的な使命ではないかと思ってきました。ろう者の敵はろう者でありたくないものです。</p>
<p>それぞれがパイオニアに</p>  <p>人が通る。道ができる。</p> <p>やらなければ何も変わらない</p>	<p>歴史に人有り。……………私は中国の文学者、魯迅の言葉が好きです。「わたしは思う。希望という物はもともと、ある物とも言えないし、なといも言えない。それは丁度、地上の道のような物だ。実際、地上にはもともと道はないのだ。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」(「故郷」講談社文庫)</p>

講演用のパワーポイントから。ご意見ください。中園秀喜。  
 ベターコミュニケーション研究会  
 TEL/FAX03-3380-3324、equal@bcs33.com  
 164-0014 中野区南台 2-51-7-707号  
<http://www.bcs33.com/>